

## 戦時下の子供の生活と遊びについて

平成 21 年三箇牧戦没者追悼平和祈念式によせて 平成 21 年 9 月 13 日 牧尾 空 祥

☆宇宙への旅も夢ではなくなり、新幹線車輛も更にスピードがアップされるという、まことにめまぐるしい発展と進歩のこの時に当たって、過日、本式典事務局の坂田光雄氏より、思いがけもない、標題のようなお話をと求められまして一瞬当惑をいたしました。

人生 80 有余年を過ごさせてもらい、まして半世紀も昔のことをと申しますと、とても大変なことと感じた次第です。

しかし、今日まで、このように健康に私を生み育ててくれた親や、私を支えて頂いた多くの「お陰」、さらにまた、尊い生命を投げ出して頂いた戦没者のご苦勞、今ある豊かな平和の生活を申しますと、深い感謝の念と共に、次代にこれを伝えていく責任を考えまして、この大役をお引受けすることにいたしました。

とても、皆様にご満足頂けるようなお話は出来ませんが、ご寛容の程をお願いいたします。

☆さて、私が小学校に入学した頃、昭和 10 年(1935 年)の学制は尋常科が 6 年とその上に高等科が 2 年の 8 年制の学業が科せられていました。従って、校名も「尋常高等小学校」でした。

もちろん、小学校 6 年を修了し、他の「上級学校」に進学する人もありました。

☆この少年期には、各地域に「少年団」なるものがありまして、上級生がいろいろの面倒をみてくれましたし、遊びも教えてくれました。

日曜日や夏、冬の休日は、早朝より「竹箒」等を持って、神社・お寺の境内や村道を清掃する社会奉仕の作業が 3 年生以上にはありました。

朝のラジオ体操には、上級生が出席をとリカードに「印」をおして確認し、皆勤をしますと「ノート」か「鉛筆」が与えられました。

農家の男の子は、3 年生ともなれば、夕方までには「牛の餌」として草を刈っておく家事手伝いもあり、農繁期等はいろいろと手伝いをしなければなりません。

もちろん、学校でも 3 年生以上は、教

室・便所の掃除は当然しなければなりませんし、何かにつけても厳しく指導されたものです。

宿題等を忘れると、廊下に立たされたり、正座もさせられました。

☆春秋の「お宮の祭礼」には学校より全員が先生の引率で「お宮さん」に参詣し、当日は式後が休日、午後は友達と共に「お店まいり」をしました。夜は「カーバイト」と「川蟹」を茹でる異様な匂いをかぎつつ、「かき氷」や「ニッキー水」・新聞の匂いのする「洋食」(ねぎ焼)を友達とわけあって食べたものです。

☆柱本の田圃には、二、三ヶ所の溜池があり、「ナマズ」や「台湾鯰」を取りにも行きましたし、水中の栗とも言われた「ヒシの実」もとったものです。

淀川が増水しますと、「河川敷」に捨てられたゴミは、川下に流されてしまいますので、田畑では処理されないものが、よく捨てられていました。その「ゴミ捨て場」では、果物の芽が出ますので、これを持ち帰って、家で育てたり、友と交換したりしたこともあります。

また、「川洲」の中に「水溜り」が出来て、小魚が住み着くものですから、これを取ったり、「ゴミ捨て場」で拾った金属品は、集めておいて「屑屋のおっちゃん」に売っては、駄菓子を買ったりもしました。

「川洲」より少し高い所は「土質」でしたから、「運動場」や「砂場」を先輩と共につくって、「走」・「跳」の指導も受けました。

☆子供は、「のびのび」と過ごし、親は「無用」に子供にかかわることはなく、それでいて、大人達は、わが子も他入の子も同様に叱る時は叱り、かわりを持ちつつ、「垣根」のない状態で育てられたように思います。

☆昭和 12 年となりますと「日華事変」が起りましたが、子供の世界では、さほどの緊張感も恐怖感もなく、遊びにふけていたように思います。

印象深いのは、「夏休みの夜」の「肝試し」で、特に「墓地(現在の玉江霊苑)」

への「肝試し」は、大変なことでした。

☆ 子供の主な遊びでは、

[男の子]は、ペッタン. ラムネ(ギン玉). 凧あげ. 独楽まわし. かくれんぼ. 蝉とり. 昆虫取り. 団子つき. 杉鉄砲. 水鉄砲. 針つけ. 水泳. ポッカ.

[女の子]は、おはじき. おじゃみ. 縄飛び. 羽根つき. けんけんとび. でした。

☆ 高等科を卒業しますと、地域には「青年団」があり、ここで、先輩と後輩のけじめが養われ、大人への基礎が育まれたものです。

しかし、私は昭和 16 年(1941 年)よりの戦争の拡大と熾烈化の中で、中学生生活に入るや否や、「学徒動員」によって、「軍需工場」に働きに行くこととなり、「機関砲の薬爽づくり」や防弾用のビニールの原料である「岩塩」運びや、海軍の食料保管庫の整備等にかりだされ、最終はあの「大阪大空襲」を身をもって体験し、命からがら助かるという場面にもでくわしたのです。

青春初期は、食料・物資の不足、戦後の悲惨な生活、闇市や買い出し、人間の冷酷さ嫌悪さを強く体験しました。

上述のごとく、そんな中でもテレビもラジオもなく、戦勝のニュースのみを聞

かされて、真実は伝わらず、暗黒の日々でありました。

☆ 他に申し述べたいこともあります。又の機会にさせていただき、最後に私がお願いしたいことは、「病」も「戦争」も同じことで、誰だって、病になろう、病を望んで日を送っている人はないと思います。

しかし、己にあまく、身勝手に、強欲で、好き嫌いも激しく、暴飲暴食を重ねておれば、しらず、しらずのうちに「病」になるものです。

「戦争」だって、誰も「今日から戦争をします」とか「大砲をつくります」なんて言うものはありません。

でも、みんなが、日々にうとく、安閑と無関心、無意識に日を送り、我がことのみ執着した生活をしておれば、のせられ、おどらされ、引きずられて「戦争」の落とし穴に落ちるではありませんか。真実が見えず、語られず、聞こえなくなった時こそ危険であります。

自らの幸せを次代にも続けられるべくご精進をいただき、ご健勝でおられますことを念じ失礼いたします。

ご清聴有難う御座いました。

